

## 【共同研究から】

### 『本別町生活文化誌』の編さんに参加して

本別町は明治35年に本別外五ヶ村戸長役場が設置されてから平成13年で100年を迎えました。その記念事業の一環として『本別町生活文化誌』の編さんがあなたに進められてきました。

『本別町生活文化誌』には当初から「アイヌの生活と文化」の章が設けられ、筆者は平成9~13年度まで内田祐一氏（帯広百年記念館）と編さん事業に参加し、資料収集・調査及び原稿執筆を担当しました。

\* \* \*

「アイヌの生活と文化」の目次は、以下のとおりです。

- 第一章 本別のコタン
- 第二章 民具にみる本別アイヌの生活誌
- 第三章 動物にみる本別アイヌの生活誌
- 第四章 本別地方の地名と伝承
- 第五章 本別の口承文芸

「アイヌの生活と文化」は、『本別町史』（本別町役場、1977年）の編集専門委員として活躍された郷土史家の目黒治助氏（1921~1993年）が、地元のアイヌ文化に詳しい沢井トメノ氏（1906年生）から3ヶ月にわたって聞き取り調査した録音テープの内容を中心に構成しました。昭和54（1979）年に録音された、これら約40本のテープの中から10本を文字化・和訳しました。テープの一部は『沢井トメノ 十勝本別アイヌ語分類辞典 一人間篇・動物篇・植物篇・民具篇』（本別町教育委員会、1990年）として発行されていますが、それ以外のテープは未公開のままでした。今回、その調査テープが整理され、まとめられたことの意義は大きいと思います。

目黒氏は、沢井氏の母・清川ネウサルモン氏（1871?~1966年）にも地元の伝説、地名や精神文化等について聞き取りを行いました。その主な成

果は『トカブチ 十勝郷土研究 第10号（目黒治助追悼号）』（静窓書房、1995年）にまとめられています。



第二章は『アイヌの民具』（萱野茂著、すずさわ書店、1978年）に沿って調査されたテープを中心まとめました。掲載したのは、「衣」に関して35、「食」に10、「住」に20、「信仰」に10、計75項目です。本別地方の民具については、これまで調査研究や資料の蓄積が進んでおらず、アイヌ語の名称だけでなく、用途や素材等も貴重な情報です。『アイヌの民具』は平取地方の民具についてまとめられており、掲載された図や写真を見ながら、本別でも同じようなものを利用したか、見たことがあるかどうかという質疑応答も録音されています。民具製作と合わせて植物の採取の時期、その利用法についても記載しました。また、沢井氏が所蔵する民具資料の一部を撮影し、掲載しました。

第三章は『知里真志保著作集別巻I 分類アイヌ語辞典植物編・動物編』（平凡社、1976年）に沿って進められた調査テープを中心に構成しました。主な内容は、アイヌ語の動物名称、肉や毛皮の利用、個々の動物についての言い伝えなどです。掲載したのは「ほ乳類」が14種、「鳥類」が20種、「は虫類・両生類」合わせて3種、「魚類」が12種、「昆虫類」が26種、計75種です。

第四章の地名と伝承については目黒氏の調査テープを中心に、古地図、既刊の資料を参考にまとめました。

第五章の口承文芸は、『本別町史』に収録されている清川氏伝承のものと、筆者が沢井氏から採録したものを中心にはまとめました。

原稿全体をまとめる際には、録音テープ中の不明な点や聞き取れない部分は出来る限り沢井氏に聞きなおし、確認するように努めました。さらに、再調査を行い新たにデータを加えました。

併せて、本別関係の写真や録音資料等の所在調査を行いました。また、町内外に住む明治～昭和一桁生まれの方々を中心に聞き取り調査をし、その際、貴重な写真を借用し、一部は掲載することができました。

本別地方のアイヌの生活誌については、これだけまとまった調査や報告は他には確認されていません。これを機にアイヌ文化研究の資料の蓄積が進み、十勝地方全体の、また他地域での研究の充実へと広がることを願っています。

澤井春美（研究課・研究職員）

## 【問い合わせあれこれ】（7）

＜質問＞ アイヌの伝統的な踊りや歌を、実際に見たり聴いたりすることができますか。

アイヌの踊りや歌の多くは、儀式などの一連の流れの中で演じたり、日常生活のいろいろな場面で歌うなどして伝承されてきました。そのような場での伝承と並んで、舞台などの演目としても踊りや歌を上演するようになってきています。

舞台では、観客が見やすく聴きやすいように照明設備や音響設備が使用されます。また多くの場合、出演者の役割や舞台での位置などをあらかじめ決めておいたり、1曲あたりの時間を短くしたり、曲の順番を効果的に構成したり、初めて見る人のために解説を行ったりといった、舞台用の工夫も

加えられています。

こうした形での踊りや歌を鑑賞できる機会として、例えば次のようなものがあります。

- 「アイヌ民族文化祭」：社団法人北海道ウタリ協会（札幌市 011-221-0462、<http://www.ainu-assn.or.jp>）が主催。毎年1回、道内各地で開催。
- 「アイヌ文化フェスティバル」：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（札幌市 011-271-4171 <http://www.frpac.or.jp>）が主催。年に数回、国内各地で開催。

### ●道内各地の見学施設などの公演

- ・「財団法人アイヌ民族博物館」（白老町 0144-82-3914 <http://www.ainu-museum.or.jp>）
- ・「川村カ子トアイヌ記念館」（旭川市 0166-51-2461）

上記2つは、ある程度まとまった数の見学者がいる場合に随時上演されます。

- ・「のぼりべつクマ牧場」内「ユーカラの里」（登別市 0143-84-2225）5～10月に毎日数回上演されます。

- ・阿寒アイヌ工芸共同組合（阿寒町 0154-67-2727 <http://www.marimo.or.jp/~akanainu>）毎日数回上演されます。

- ・この他、各地の観光施設などで上演されるものがあります。

### ●各市町村による催しものなど。

- 北海道ウタリ協会の各支部、アイヌ文化の伝承保存会などが主催する各種の行事など。

\* \* \*

当センターが平成13年度に発行しましたアイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ 7 芸能』では、アイヌの歌や踊りのあらましのほか、歌や踊りを記録した資料や、資料を視聴できる施設なども紹介しています。

甲地利恵（研究課・研究職員）

## 【著作紹介】

### 第3回 金田一京助 (1882~1971年)

言語学、国語学、民俗学などの幅広い分野で活躍した金田一氏は、アイヌ語・アイヌ文学研究の先駆者として有名です。氏はアイヌ語の文法体系の科学的な研究、アイヌの口承文芸（特に英雄叙事詩）の採録と研究に大きな業績を残しました。こうして築き上げられた研究は、久保寺逸彦氏（1902~1971年）や知里真志保氏（1909~1961年）に引き継がれることになりました。また、アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三氏（1899~1992年）とも交流し大きな影響を与えています。

著作のほとんどは『金田一京助全集』と『アイヌ叙事詩ユーカラ集』で読むことができます。

### 『金田一京助全集』(全15巻)

全15巻の中から明治41（1908）年～昭和43（1968）年の間に発表されたアイヌに関する主な著作を紹介します。

三省堂、1992~1993年／価格は全て税抜き本体価格



### 第一巻 言語学 (7,573円)

巻末の資料「日本国内 諸人種の言語」には、北海道と樺太のアイヌ語の単語がそれぞれ約250と21の会話例が掲載されています。

### 第二巻 国語学 I (8,252円)

### 第三巻 国語学 II (8,252円)

### 第四巻 国語学 III (7,767円)

第二～第四巻は日本語との関係を論じた箇所がところどころに見られます。

### 第五巻 アイヌ語 I (7,379円)

樺太アイヌの音韻組織／アイヌ語学上の一問題／語法上から見たアイヌ／アイヌ語清濁考／アイヌ語の所謂前置詞の問題／数詞から観たアイヌ民族／アイヌ語の発音について／アイヌ動詞の第三類—複合動詞の人称形について—／アイヌ語学講義／あいぬ物語附録 樺太アイヌ語大要／あいぬ物語附録 樺太アイヌ語彙

### 第六巻 アイヌ語 II (8,058円)

一 アイヌ語学史：蝦夷語学の鼻祖上原熊次郎と其の著述／世界最古の蝦夷語彙—佐々木博士所蔵の『松前の言』について—／アイヌ語学研究資料に就て／チェンバリン先生とアイヌ語学／シーボルトとアイヌ語学／蝦夷語学事始／アイヌ語学の隠れたる先達—亀田次郎氏発見の「番人円吉蝦夷記」に就て—／蝦夷隨筆とその著者／江戸時代アイヌ語の研究書

二 日本語との交渉（語源・地名説）：地名エゾ語訳の方法とエゾ語の史料／東北の地名とあいぬ語／言語学上より見たる蝦夷とアイヌ／胡沙考／陸奥の目名／北奥地名考—奥羽の地名から観た本州エゾ語の研究—／トドの考／アイヌ語と国語／山間のアイヌ語／国語とアイヌ語との交渉／国語とアイヌ語との関係—チェンバリン説の再検討—／樺桜考／東歌に就て／えみし（蝦夷）の国／奥州の蝦夷語／アイヌから来た言葉／【資料】あいぬ物語

### 第七巻 アイヌ文学 I (7,282円)

アイヌの文学／アイヌの詩歌／蝦夷伝説源流考／アイヌの詞曲について／アイヌの神話に就いて／アイヌの叙事詩に就て／アイヌの神話／アイヌの伝承／アイヌの詩歌／蝦夷淨瑠璃考／原始文学断想—樺太アイヌの叙事詩について—／久保寺君のアイヌの「聖伝」について／原始文学と叙事詩—

アイヌのカムイユカラに就て—／アイヌ文学／神謡オキクルミの詞章／アイヌの歌謡と万葉集の歌／上代文学とアイヌ文学／口誦文学としてのユーカラ／アイヌ語とアイヌ文学／原始文学としてのユーカラ—アイヌの民族的叙事詩—

### 第八卷 アイヌ文学Ⅱ (7,282円)

ユーカラ概説／ユーカラの話／北方神話の色彩—巫覗と神話—／口承文芸の性格／万葉集の歌とアイヌの歌謡／アイヌの芸能

### 第九卷 アイヌ文学Ⅲ (8,252円)

北蝦夷古謡遺篇／虎杖丸

### 第十卷 アイヌ文学Ⅳ (7,573円)

アイヌ叙事詩 ユーカラ／沙流アイヌの羽衣伝説／蝦夷の秘曲『蘆丸』の遺篇／虎杖丸別伝

### 第十一卷 アイヌ文学Ⅴ (8,252円)

アイヌ聖典／アイヌの神典—アイヌラックルの伝説—／りくんべつの翁

### 第十二卷 アイヌ文化・民俗学 (9,515円)

一 アイヌ概説：アイヌの系統／アイヌ研究の問題及び方法／アイヌ研究の現状／樺太・北海道の人種／北海道アイヌの今昔／謎のアイヌ民族／アイヌの人々

二 アイヌの生活・民俗：アイヌの生活／アイヌの生活と民俗／アイヌのイトクバの問題／アイヌの黥／原始文学に現われたる性／歌の審判—アイヌのチャランケの話—／賠償

三 アイヌの信仰・伝説：アイヌの信仰生活／アイヌの宗教／アイヌの守護神について／アイヌの神と熊の説話／熊祭の話／アイヌ始祖オキクルミ伝説／求婚伝説より羽衣・三輪山伝説へ—説話に映じたアイヌ土俗的一面—／神がかりの話／巫女

の神語から叙事文学の誕生へ／アイヌと石／アイヌのマスク／アイヌと夢／蝦夷とシラ神／觀音利生記—アイヌの伝えている日本説話—

四 歴史：蝦夷とアイヌ—歴史的考察—／蝦夷即アイヌの論／蝦夷と日高見国／アイヌ文化と日本文化との交渉／本州アイヌの歴史的展開／蝦夷名義考—カイ説の根拠について／俘囚考／蝦夷知識の消長／日の本夷の考／平泉のミイラ／義経入夷伝説考／アイヌの義経伝説／英雄不死伝説の見地から／日高國義経神社の由来／クナシリ・エトロフのアイヌの話—南千島はやはり固有領土—

五 民俗学：山の神考／巫女と座頭／名と民俗／オシラ様考—馬鳴像から馬頭娘及び御ひらさまへ—

#### 六 雜纂・報告

北海道の河童／人が動物に化ける話／囲炉裏の名称／前号の太使画伝に就て

### 第十三卷 石川啄木 (8,350円)

啄木とアイヌの盲詩人—六十年の忘れ得ぬ人々—

### 第十四卷 文芸Ⅰ (8,447円)

片言をいうまで／太古の国の遍路から／盲詩人／人差し指の話／ペンを休めて／葉がくれの花—マツさんとナミさん—／近文の一夜／知里幸恵さんのこと／故知里幸恵さんの追憶／秋草の花／慰めなき悲しみ—アイヌの一青年へ—／違星青年／アイヌの佐倉宗五郎の話—問題の旭川土人地の一件—／安之助／樺太便り／思い出の樺太／古井戸の底から／室蘭王／おれらのおやじ／言葉だから／アイヌの宗教／どうにもならなかった話／イランカラブテ—アイヌをにっこりさせる一言—／後日物語／収税吏と間違えられた話—アイヌ部落巡歴日誌—／アイヌの子供たち／私のアイヌ語学の産婆／あいぬの話／アイヌ部落採訪談／『コシャマイン記』とアイヌの伝承／隨筆コシャマイン記／人類の古辞『ユーカラ研究』序—／アイヌの話—心の小道余話—／アイヌ語ノート／因縁のカラフト島／歴史と神話は別／北の島々／内地のアイヌ語地名／「心の小道」をめぐって

## 第十五巻 文芸Ⅱ (8,641円)

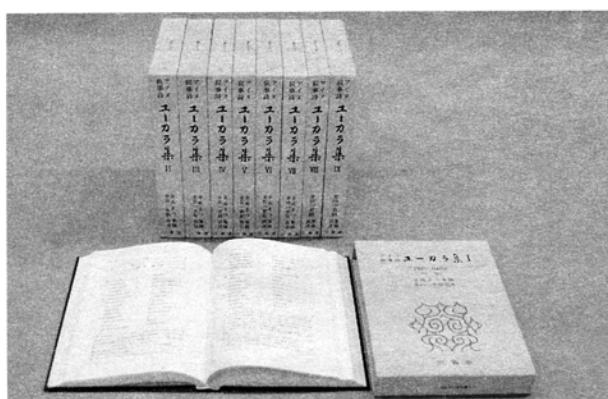
### 『思い出の人々』／『おりおりの記』

随筆や自伝、短歌、単行本の序文等を収録したものの中に、アイヌ語の研究を志した動機や調査に協力した多くの人々の思い出が綴られています。巻末に「金田一京助年譜」と「金田一京助主要論著年表」が付いています。

### 『アイヌの叙事詩ユーカラ集』(全9巻)

三省堂、初版1959～1975年／復刻1993年（絶版）

第Ⅰ～Ⅱ巻はオイナ（聖伝）、第Ⅲ～Ⅸ巻はユカラ（英雄叙事詩）を掲載しています。第Ⅶ巻までは登別出身の伝承者・金成マツ氏（1875～1961年）が筆録した物語が元になっています。第Ⅷ～Ⅸ巻は平取出身の鍋沢ワカルバ氏（1863～1913年）と平村コタニピラ氏（1863～1941年）の伝承したユカラを載せています。第Ⅸ巻は校正段階で金田一氏が亡くなり、その後出版されたものです。



### ・第Ⅰ巻 "PON OINA" (小伝)

金成まつ筆録／金田一京助訳注

### ・第Ⅱ巻 "PORO OINA" (大伝)

金成まつ筆録／金田一京助訳注

### ・第Ⅲ巻 "PONSAMORUNKUR" (小和人)／

"KAMUIKARSAPA KAMUIKARTUMAM"

(神造頭・神造胴)

金成まつ筆録／金田一京助訳注

### ・第Ⅳ巻 "KEMKA KARIP" (朱の輪)

金成まつ筆録／金田一京助訳注

### ・第Ⅴ巻 "NISHIMAKUNMAT" (ニシマク姫)

金成まつ筆録／金田一京助訳注

### ・第Ⅵ巻 "IYODIUNMAT" (余市姫)

金成まつ筆録／金田一京助訳注

### ・第Ⅶ巻 "UCHIU NINKARI" (耳輪の曲)

／"AKEUSUTU IWENRESU" (惡伯父物語)

金成まつ筆録／金田一京助訳注

### ・第Ⅷ巻 "SHUPNE SHIRKA" (蘆丸の曲)

本伝ITAK-E-IKATKAR (詞のあやかし)／  
"SHUPNE SHIRKA" (蘆丸の曲) 別伝  
ITAK-E-IKATKAR (詞のあやかし)

金田一京助 筆録・訳注

### ・第Ⅸ巻 "KINA CHISHINAP MUN

CHISHINAP" (草人形・くさひとかた)／  
"TUPESAN KAMIMANIT OTUMIOSHMA"  
(八串の肉串いくさ物語)

金田一京助 筆録・訳注

この他『著作集』に所収されなかった図書には以下のようなものなどが刊行されています。

- ・『アイヌ語法概説』知里真志保と共に著（岩波書店、1936年）

- ・『アイヌ芸術』杉山寿栄男と共に著（第一青年社、初版は三冊に分けて刊行、1941～42年／北海道出版企画センター、新装版 1993年）28,000円（本体）

- ・Ainu Life and Legend (国際観光協会、1941年)

- ・『アイヌ童話集』荒木田家寿と共に著（第一文芸社、1943年）

## 【センター刊行物のお知らせ】

### ●『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第8号

以下にテーマと執筆者を紹介します。

- ◇ [論文] 近世北海道におけるアットウシの産物化と流通

本田優子

- ◇ [研究ノート] 「クモの神の自叙」の音楽について（続）一神謡の演唱にみる音節数・アクセント・音型・リズム型の相互関係一

甲地利恵

- ◇ [論文] アイヌ語千歳方言のkaneの用法

佐藤知己

- ◇ [調査報告] 松島トミさんの口承文芸 4

大谷洋一

- ◇ [資料紹介] 第5、8回帝国議会「北海道土人保護法案」審査特別委員会会議録

小川正人

『研究紀要』は主に道内外の大学、博物館、研究機関、図書館、アイヌ文化関係機関などに配布するほか、北海道行政情報センター（北海道庁別館3階 電話011-231-4111内線22-389または011-241-7979）で有償頒布いたします。

- 『山田秀三文庫 文書資料目録Ⅱ 地図資料』及びアイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ 7芸能』は、昨年9月に発行しました。

### ●ホームページについて

昨年9月にホームページを開設し、施設概要（利用案内、施設案内等）、調査研究（当センターが実施している研究課題の評価調書を掲載）、情報収集提供（センター所蔵資料目録の紹介）、普及（アイヌ文化紹介小冊子、ニュースレター、アイヌ文化講座等の案内）の各事業や刊行物の紹介など

を行っています。

最新の更新から、『ポン カンピソシ 7 芸能』に掲載されている鍋沢キリさんが歌うヤイサマと呼ばれる歌を聞けるようにしました。

今後ともこのホームページを、より見やすく使いやすいものにしていきますのでご期待ください。

## 【平成13年度後半の主な動き】

(10月)

- ・運営協議会

(会議記録は、当センターで閲覧できます。)

(11月)

- ・平成13年度アイヌ文化講座（松前町教育委員会と共に、松前町）講演：佐々木史郎氏（国立民族学博物館助教授）「松前と山丹交易 一大陸との経済文化交流における松前藩の役割についてー」

(あらましは、ホームページで閲覧できます。)

- ・平成13年度歴史民俗資料館等専門職員研修会  
(千葉県佐倉市／参加：貝澤)

(3月)

- ・運営協議会

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5F  
Tel.011-272-8801(代) Fax.011-272-8850  
開館／月～金 9:00～17:00 休館／土・日・祝  
<http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ksambkc/hacrc/hp/index.htm>



古紙配合率100%、白色度70%の再生紙を使用しています。